

科目名	日本語教育実習(2時限)			ナンバリング	JPN171	授業形態	実習
対象学年	4	開講時期	前期集中	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	玉懸元	担当教員					

授業の概要	「日本語教育文法」「日本語学習アドバイジング」「日本語教育法1」「日本語教育法2」といった科目で培った日本語教育に関する知識及び技術・能力を用いて、実際の日本語教育機関で授業を行う。その実習経験を通して、日本語教育の実践力を身に付けることがこの科目の目標である。実習の事前・事後には、教材分析、教案・教具作成、模擬授業、実習の振り返りなどを行なう。						
到達目標	(1) 日本語教育機関で用いる教材を分析することができる。 (2) 教材分析に基づき、教案を作成することができる。 (3) 教案を遂行するために必要な教具を準備することができる。 (4) 教案に基づき、日本語教室で授業を行うことができる。 (5) 自身の授業を振り返り、改善点を見出し、レポートとしてまとめることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	「日本語教育文法」「日本語学習アドバイジング」「日本語教育法1」「日本語教育法2」「情報と言語教育」をすべて履修した学生の受講を想定している。それらの科目で得られる予備知識が「日本語教育実習」の履修では不可欠である。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
(1) 日本語教育機関で用いる教材を分析することができる。 (2) 教材分析に基づき、教案を作成することができる。 (3) 教案を遂行するために必要な教具を準備することができる。 (4) 教案に基づき、日本語教室で授業を行うことができる。 (5) 自身の授業を振り返り、改善点を見出し、レポートとしてまとめることができる。	(1) 日本語教育機関で用いる教材を分析することができる。 (2) 教材分析に基づき、教案を作成することができる。 (3) 教案を遂行するために必要な教具を準備することができる。 (4) 教案に基づき、日本語教室で授業を行うことができる。 (5) 自身の授業を振り返り、改善点を見出し、レポートとしてまとめることができる。 (6) 新しい日本語教育の方法について提言することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		60%
宿題・授業外レポート	○	○			○		20%
授業態度・授業への参加		○	○	○			20%

課題、評価のフィードバック	原則として毎時間、授業の終わりに、当日の授業内容に関連する課題を提出してもらう。授業後、提出された課題から、クラス全体で共有しておくことが有益と考えられるものを選出する。翌週(原則)の授業で、選出しておいた課題を適宜プロジェクター等も活用しながらクラス全体に紹介し、教員のコメントを加える。以上をもって課題に対するフィードバックとする。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	ガイダンスを行う。	
	第2回	日本語教育機関の見学	日本語教育機関の見学を行う。	
	第3回	授業計画(1)	授業計画(1)を立てる。	
	第4回	授業計画(2)	授業計画(2)を立てる。	
	第5回	授業計画(3)	授業計画(3)を立てる。	
	第6回	模擬授業(1)	模擬授業(1)を行う。	
	第7回	模擬授業(2)	模擬授業(2)を行う。	
	第8回	模擬授業(3)	模擬授業(3)を行う。	
	第9回	実習(1)	日本語教育機関で実習(1)を行う。	
	第10回	実習(2)	日本語教育機関で実習(2)を行う。	
	第11回	実習(3)	日本語教育機関で実習(3)を行う。	
	第12回	実習(4)	日本語教育機関で実習(4)を行う。	
	第13回	実習(5)	日本語教育機関で実習(5)を行う。	
	第14回	実習の振り返り(1)	実習(1)～(5)を振り返り、実習レポートの原案を作成する。	
	第15回	実習の振り返り(2)	実習(1)～(5)及び前回の授業を振り返り、実習レポートを完成させる。	
	試験	定期試験は行わない。		
授業の進め方		実習		
授業外学習の指示		参考書を活用しながら、各回の授業内容について予習・復習を行うこと。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)		

教科書	適宜資料を配付する。
参考書	・荒川洋平(2004)『もしも…あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』スリーエーネットワーク ISBN-13: 978-4883193073 ・荒川洋平(2007)『続・もしも…あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』スリーエーネットワーク ISBN-13: 978-4883194247 その他、授業中に指示する。
参考URLなど	授業中に指示する。
その他	・この科目は実習先の日本語教育機関と連携して行うため、途中で履修を放棄することはできない。 ・実習先の日本語教育機関の意向によって授業計画を変更することがある。

日本語教育実習（2時限）

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		例：模範的、レベル3	例：標準、合格、レベル2	例：要改善、不合格、レベル1
1	教材の分析	日本語教育機関で用いる教材を分析することができ、そこに独自の試みが含まれる。	日本語教育機関で用いる教材を分析することができる。	日本語教育機関で用いる教材を分析することができない。
2	教案の作成	教材分析に基づき、教案を作成することができ、そこに独自の試みが含まれる。	教材分析に基づき、教案を作成することができる。	教案を作成することができない。
3	教具の準備	教案を遂行するために必要な教具を準備することができ、そこに独自の試みが含まれる。	教案を遂行するために必要な教具を準備することができる。	教案を遂行するために必要な教具を準備することができない。
4	実習	教案に基づき、日本語教室で授業を行うことができ、そこに独自の試みが含まれる。	教案に基づき、日本語教室で授業を行うことができる。	日本語教室で授業を行うことができない。
5	実習の振り返り	自身の授業を振り返り、改善点を見出し、レポートとしてまとめることができ、加えて、新しい日本語教育の方法について提言することができる。	自身の授業を振り返り、改善点を見出し、レポートとしてまとめることができる。	自身の授業を振り返り、改善点を見出し、レポートとしてまとめることができない。
6				
7				